



第26号  
17/12/13  
発行  
ことぶき大学  
事務局  
TEL39-2318



どうぞよいお年を  
お迎えください

今年も、年末お楽しみ忘年会を迎える時期となりました。

週明けから風が強くなり、次第に雪も降りはじめました。気温も少し高めで荒れるのかも思いましたが今朝は、とてもいい天気です。(12日)

師走の候、ことぶき大学の皆さまにおかれましては、ますますご清祥のことと存じます。

平成29年も間もなく終わろうとしています。今年も、皆さまにとってどんな年でしたでしょうか。



「今年の世相を表す漢字一文字」の決定は12日というのですが、今年も、突然、瞬時警報アラーム・アラートが鳴りだすなど、自然災害とは別な問題が安全を脅かしてい

る国際情勢でもあります。

指導者の使命や役割について、「指導者は、夢や希望を扱うこと」と記したメッセージがありました。なかなか思つようにはいかないものです。指導者を選んでいるのは、私達一人一人なのですから……



さて、私も富良野の住民となり、今年で3年目を迎えました。

こうして皆さんと一緒に校歌を歌い、フジオ体操をするのが「あー、生きてるー」と喜びを感じます。

何気ない毎日の生活に喜びや感動があるということをあらためて実感できていると思っています。

また、私にとっての貴重な出会いは、「麓郷のお隣の農家さん夫婦との触れ合い」でしょうか。それは、私たち夫婦の生き方や価値観が変わるほど貴重なものでもありました。

更に、今年は、町内会の仕事に係わったり、近くの山林で薪を切ったり運んだり積んだり、地域の草刈りやボランティアなどで汗を流すことに喜びを感じた年でもありました。

それから、実に「カボチャが美味しい」「白菜やキャベツ」「ほうれん草が美味しい」また、大根が美味しいので大根カレーが大盛況、いろいろな方に試食していただきました。今年は、「富良野の野菜は本当に美味しい」という実感を強く感じただ年でもありました。

何気ない毎日の生活、皆さんとの出会いに、心から感謝をしております。

**本日の日程**

12月13日(水曜日)



9時00分◆学年別研究  
当番 研究科・本科一年

(午後の準備・研究の整理・今後の方向・アンケート記入など)

12時00分◆お楽しみ忘年会

昼食・休憩・余興

14時30分◆散会 後片付け

さあ、今日は、お楽しみ忘年会ですね。どんなサプライズがあるのでしようか。

午前中は、午後の余興の準備の間や学年別研究のまとめや事務局からのアンケートを記入する時間にしてください。

**来年のことぶき大学  
に向けて**

♥ 今年度の学習・活動内容で、印象に残っているもの。

来年度も継続してほしいものを書いてください。



来年度に向けての学習計画を立案中です。

全員の皆さんのご意見を聞かせてください。

新年度に入り、あらためて事務局からの新しい提案を示していきたいと思っております。

学年ごとまとめ、1月17日(水)までに事務局に提出ください。

ただし、クラブ学習は除いてください。

次回の日程



1月17日(水曜日)

当番 本科二年

三校合同

(午前) 新春講話

(午後) お楽しみ新年会

9時15分 ◆朝の集い

9時30分 ◆学長講話

富良野市教育委員会

教育長 近内 栄一様

10時15分 ◆校長講話

富良野市立扇山小学校

校長 室 篤宏様

12時00分 ◆風食会

三校合同新年お楽

14時00分 ◆散会

後片付け

14時30分 ◆富良野校自治会・山部

校自治会合同会議

※新年度のことぶき大学に向けて、富良野校と山部校の二校の自治会合同会議を実施します。

この会議は、事務局からの提案です。

今回は、新年講話と三校合同新年会、富良野校・山部校の自治会合同会議を開催する予定です。

明日から、ことぶき大学は冬期休業に入りますが、積雪による見通しの悪い交差点、屋根からの落雪、スリップによる事故や怪我には、十分に注意をしましょう。

総令保健センター

西出さんによる講話について



毎年楽しみにしている西出さんの講話が新春、1月24日(水曜日)に予定されています。

今年度は、7月に次いで2回目となります。

毎回、西出さんの辛口の講話は、私たちにとりましては、耳のいたいことではあります。いい刺激とされていることは間違いなしです。でも、今回の講話は、少し流れを変えてみたいと思います。

ここに、私が気になっていた事例があります。皆さんもご存じとは思いますが。

「欧米には、寝たきりの老人がいなくて」といっています。

私の母は、現在、寝たきり「胃ろう」や点滴などの人口栄養で延命を図っています。それが、非論理的であり老人虐待という考え方さえあるようです。

西出さんをお交えて、高齢者問題を考えていきたいと思えます。

子ども未来フォーラム

に参加して

富良野校大学院2年

野村富美子

次世代を担う子供達の意見に耳を傾けると同時に見守る事が、私達に出来る第一歩ではないでしょうか。

それにしても、ことぶき大学の学生の参加が少なく残念でした。

やはり子供は未来だと思おうと同時に、元氣と勇気を頂き一日幸せな気分になり感謝でした。

漱石文学について

「夏目漱石没100年の読み直し」「女は詰まらないものね」「それが女の義務だから仕方ない」「健三の

返事は世間並であった。けれども彼自身の頭で批判すると、全く出鱈目に過ぎなかった。枯は腹の中で苦笑した」



《道草》

幼い頃、養子に出された健三は、生家に戻って以来、20年も養父の島田とは疎遠だった。ある日、健三は自宅の近くで、うらぶれた老人になっている島田を見かける。ひよっとして自分を訪ねて来たのかという悪い予感が当たり、島田は過去の亡霊のように健三の前に現れた。

一度は親子の縁を結んだ仲、親父が困っているなら助けるのが当然だろう、図々しくお金をせびる島田を、健三はきっぱり拒絶できない。

島田と離別した養母もやって来て、くどくどと愚痴をこぼす。妊娠中の妻は精神的に不安定で、夫婦喧嘩が絶えない。四面楚歌の状況に健三は息苦しくなり、とにかく島田に手切れ金を渡して決着をつけようと決断する。

漱石がロンドン留学から帰国し、教師をしながら小説を書いていた頃の出来事を題材とした半自伝的長編。